

図書館だより

NO. 130 2008年 12月号
(2008年12月1日発行)

はつかいち市民図書館
電話(0829)20-0333
廿日市市下平良1-11-1

ホームページ <http://www.hiroshima-hatsukaichi-lib.jp/>

図書館をご利用いただきありがとうございます。

はつかいち市民図書館・大野図書館(大野西公民館図書室・移動図書館車を含む)・さいき図書館の蔵書数(本)は、合計すると351,753冊あります。利用者のなかには「年間100冊読むのを目標にしている」と言われる人や、「書評展示の本を読むのが日課」と言われる人がいます。来年こそは、たくさん本を読みたいと思っている人、素敵な本に出会いたいと思っている人にとって、膨大な図書館資料のなかから本を選ぶことは大変なことかもしれません。どんな本を読んでいいかわからない人や、自分の興味関心のあることについて書かれている本がどこにあるのかわからない人、はつかいちの図書館にはなくても、読んでみたい本がある人等々は、

相談窓口(レファレンス)をご利用ください!

<今月の展示>

<さくらびあ展示>『フォークソング』

1月11日(日)に開催される「アコースティックライブ2009 in さくらびあ」にちなんで、フォークソングに関する本を展示します。

<中央展示>『物故者の本』

2008年4月2日に亡くなられた児童文学者の石井桃子さん、6月18日に亡くなられた挿絵画家のターシャ・テューダーさんの著書など、2008年4月~11月の間に亡くなられた各界の著名人の著書を展示します。

<児童展示>『メリー・クリスマス』

クリスマスまであと少し。家族や友だちなど、みんなでクリスマスにちなんだ絵本を読んで楽しく過ごしてみませんか。

<テーマ展示>『あったか手作りの本』

寒い季節だからこそ、心も体もあったくなる手作りのものを作ってみたいですね。今月は、手作りに関する本を集めて展示します。

11月読書会で読んだ本

一般書

『明日の記憶』

荻原 浩/著 F/才 光文社

50歳で若年アルツハイマーの告知を受けた広告代理店の営業部長、佐伯が主人公。メモでポケットをふくらませ、必死になって記憶を繋ぎ止めようする姿や酒を自制しつつもノンアルコールのビールにすがりつく姿などは、哀切で痛々しく胸がつまる。欠落していく記憶の中で、手を焼いていたクライアントの思いやり、唯一の息抜きだった陶芸教室での失望、そして何よりも妻の存在など、今まで見えなかったものが見えてくる。ノンフィクションではないかと思うほど、日常生活の中で起きる喪失が、佐伯の視点でリアルに描かれている。次々と失われていく記憶の中で、佐伯が最後までこだわり、大切にしたいものは何だったのか？現実を受け止め、残された時間をどう生きるか？改めて考えさせられた。
読書会会員：香川一枝

読書会は毎月第3水曜日

(10:00~12:00)です。詳しくは窓口でお問い合わせください。

<今月の新着(一般書)>

図書館には1カ月に約700冊の新刊が入ります。その一部を紹介します。

★ 図書館のホームページで新着図書の一覧を見ることができます ★

- 『昭和天皇・マッカーサー会見』 豊下楯彦/著 岩波書店 B210.7/ト
- 『岡潔 ~数学の詩人~』 高瀬正仁/著 岩波書店 S289.1/才
- 『老いて男はアジアをめざす』 瀬川正仁/著 バジリコ 334.4/セ
- 『上を向いて歩こう』 小林雅之/著 本の泉社 366.6/コ
- 『つなげる力』 藤原和博/著 文芸春秋 370.4/フ
- 『アフガニスタン母子診療所』 梶原容子/著 白水社 498.0/カ
- 『脳が喜ぶ生き方』 久恒辰博/著 講談社 S491.3/ヒ
- 『おうちニット ~冬の手編み時間~』 雄鶏社/編 雄鶏社 594.3/オ
- 『忙しい日でも、おなかは空く。』 平松洋子/著 日本経済新聞出版社 596.0/ヒ
- 『森の力 ~育む、癒す、地域をつくる~』 浜田久美子/著 岩波書店 S650.4/ハ
- 『日本語の作法』 外山滋比古/著 日経BP社 810.4/ト
- 『英語がうまくなる人、ならない人』 田村明子/著 NHK出版 S830.7/タ
- 『酒にまじわれば』 なぎら健彦/著 文芸春秋 914.6/チ
- 『雨の日も、晴れ男』 水野敬也/著 文芸春秋 BF/ニ
- 『ちょいな人々』 荻原浩/著 文芸春秋 F/才

中学生のすすめる本

YAコーナーの本

『ハッピーバースデー』

青木和雄・吉富多美/作
913/A 金の星社

「ああ、あすかなんて、本当に生まなきゃよかったなあ。」自分の思い通りに成長した長男に比べ、できの悪い娘あすかに容赦ない言葉を浴びせる母静代。しかし、静代の見せかけの鎧(よろい)は、職場の年若い上司なつきによって徐々に剥がされていく。愛に餓え、愛を求めて彷徨う母親再生の物語。

面白いという表現は的確ではありません。悲しい話なんだけど、読むと癒される本です。今、自分が人から大事にされていることは、当たり前のように思っただけで、いけないうちでなんだと思っただけで、「生きる」ことについても考えさせられました。
みなさんも、ぜひ読んでみてください。

四季が丘中：池田優希菜

新刊

こ と も の ほ ん

『だんろのまえで』

鈴木まもる 教育画劇 E/ス

雪の中、道に迷ったぼくが、休ませてもらおうと入ったところは、ドアのある大きな木のうろでした。そこには、暖炉があって、うさぎが暖まっています。ゆらゆら燃える火を見ていると、ぼくの気持ちはだんだん落ち着いてきました。静かで心温まる絵本です。

『ドリトル先生アフリカへいく』

ヒュー・ロフティング原作 南條竹則文 茂田井武絵 集英社 E/E

医学博士のドリトル先生は動物が大好き。動物話を話せるようになった先生は、疫病を治すためにアフリカへ。幻灯（スライド）用に描かれた絵本で、子どもの本の世界で活躍した画家の生誕 100 年を記念し出版されました。

『ありのフェルダ』

オンドジェイ・セコラさく・え 関沢明子やく 福音館書店 989/ㄝ

陽気で前向き、だけどお調子者のフェルダ。てんとう虫に恋をし、こおろぎのラジオを修理したり、バッタを馬に仕立てたりといつも大騒動のフェルダを中心に、繰り広げられる個性豊かな虫たちの物語。1963年に出版され、チェコで世代を超えて愛され続けているロングセラーが翻訳されました。

『てぶくろがいっぱい』

フローレンス・スロボドキン文 ルイス・スロボドキン絵 三原泉訳 偕成社 E/ス

ふたごのドニーが赤い手袋を片方なくしました。手袋はすぐ見つかったのですが、赤い手袋がどんだんドニーの家に届きます。手袋をなくしたといううわさを聞いた人が、持ってきてくれるのです。手袋は増えて、とうとう10こになり…。赤色が印象的。

『子どもの兵士-銃をもたされる子どもたち-』

アムネスティ・インターナショナル日本編著

リブリオ出版 367/ㄐ

今もこの世界のどこかで、武器を持って戦っている子どもたちがいます。「戦うマシン」として子どもたちを使い捨てている現実が、衝撃的なレポートで紹介されており、写真や証言はとても悲惨です。解決に向けて動きはじめた様子も書かれています。

『カナリア王子-イタリアのむかしばなし-』

イタロ・カルヴィーノ再話 安藤美紀夫訳 安野光雅画 福音館書店 973/ㄐ

継母のいじわるから、森の奥の古い城に閉じ込められた王女は魔法の本を手に入れました。ページをめくると、愛する王子が黄色いカナリアになって空高く舞い上がり…。『民話の宝庫』と呼ばれるほど豊かな民話に恵まれているイタリア各地から収集し、再話した二百編の民話から、表題作他七編を収録。

ミニブックトーク

♪クリスマス クリスマス♪

12月と言えばクリスマスですね。子どもたちばかりでなく、大人もなんだかウキウキしてきます。本の中の子どもたちはどんなクリスマスを過ごしているのでしょうか？

児童展示コーナーで絵本に描かれたクリスマスを紹介しています。あわせてお楽しみください。

- ① おもちゃのウインドーで、人形のホリーは自分を買ってくれる女の子を待ち、孤児のアイビーは人形を買ってくれるおばあちゃんを探していました。女の子と人形の不思議な出会いを描きます。
- ② アフリカ・ナイジェリアの男の子アファムは、クリスマスのおまつりで、仮装行列「モー」（精霊）になろうと仮面を作る準備を始めました。人々のクリスマスの過ごし方を写真で伝えます。
- ③ アドベントのろうそくが灯されるころになると、家中にクリスマスのにおいが漂います。マディケンとリサベットは、クッキーを焼いてタフィーを作ると大忙しです。
- ④ イブが待ちきれないウォートンは、あっという間に時間が過ぎるようにとスケートに出かけました。ところが、ふぶぎに遭って帰れなくなってしまいました。しかも、まよいこんだ洞穴はクマの家…。
- ⑤ 欲深いスクルージ老人の前に、4人の幽霊が現われ…。クリスマスの古典的名作です。

①『クリスマス人形のねがい』ルーマー・ゴッデン文 バーバラ・クーニー絵 掛川恭子訳 岩波書店 2001 933/ㄐ

②『たのしいおまつり』イフェオマ・オニェフル作・写真 さくまゆみこ訳 偕成社 2007 386/ㄐ

③『クリスマスをまつリサベット』アストリッド・リンドグリーン作 石井登志子訳 岩波書店 1994 949/ㄐ

④『ウォートンのとんだクリスマス・イブ』ラッセル・E・リッソ作 ロリス・ディ・イリッソ絵 佐藤涼子訳 評論社 2008 933/E

⑤『クリスマス・キャロル』ディケンズ作 村山英太郎訳 岩波書店 1950 933/ㄝ（脇明子訳もあります）

ベストリーダー (予約の多い本)

11月23日集計の「平成20年 ベストリーダー (予約の多い本)」を紹介します。

- | | | |
|---------|-----------------------|------------------------|
| ①<120回> | <u>流星の絆</u> | 東野圭吾/著 講談社 2008.3 |
| ②<86回> | <u>ホームレス中学生</u> | 田村裕/著 ワニブックス 2007.9 |
| ③<84回> | <u>夢をかなえるゾウ</u> | 水野敬也/著 飛鳥新社 2007.8 |
| | <u>ハリーポッターと死の秘宝 上</u> | J.K.ローリング/作 静山社 2008.7 |
| ⑤<83回> | <u>おひとりさまの老後</u> | 上野千鶴子/著 法研 2007.7 |
| ⑥<82回> | <u>ハリーポッターと死の秘宝 下</u> | J.K.ローリング/作 静山社 2008.7 |
| ⑦<77回> | <u>聖女の救済</u> | 東野圭吾/著 文芸春秋 2008.10 |
| ⑧<72回> | <u>ガリレオの苦悩</u> | 東野圭吾/著 文芸春秋 2008.10 |
| ⑨<66回> | <u>おそろし</u> | 宮部みゆき/著 角川書店 2008.7 |
| ⑩<58回> | <u>なぜ君は絶望と闘えたのか</u> | 門田隆将/著 新潮社 2008.7 |
| ⑪<55回> | <u>食堂かたつむり</u> | 小川糸/著 ポプラ社 2008.1 |
| ⑫<48回> | <u>楽園 下</u> | 宮部みゆき/著 文芸春秋 2007.8 |
| ⑬<47回> | <u>楽園 上</u> | 宮部みゆき/著 文芸春秋 2007.8 |
| | <u>告白</u> | 湊かなえ/著 双葉社 2008.8 |
| ⑮<42回> | <u>東京島</u> | 桐野夏生/著 新潮社 2008.5 |

年末年始の休館日は、12月28日(日)～1月5日(月)となっております。ご不便をおかけいたします。返却ポストへは、本と雑誌のみ投函してください。

* なるべく、休館日あけの窓口へご返却くださるようご協力をお願いします。

12月の図書館カレンダー

◎ちいさいこのためのおはなし会

【対象】乳幼児

【時間】1回目 11時～

2回目 11時30分～

※整理券を相談窓口で配布します

☆おはなし会

【対象】幼児～小学校低学年

【時間】11時～

場所はいずれも図書館会議室です

日	月	火	水	木	金	土
	1 休	2 休	3	4	5 ◎	6
7	8 休	9	10	11	12	13 ☆
14	15 休	16	17	18	19 ◎	20
21	22 休	23	24	25	26	27 ☆
28 休	29 休	30 休	31 休			